

## 平成 30 年 7 月豪雨を踏まえた高梁川本川沿川4市長との意見交換会 議事概要

日時:令和 4 年 5 月 24 日(火)15:00~16:00

場所:岡山河川事務所 2 階会議室(WEB会議)

### 【市長から出された主なご意見】

- 国・県による河道掘削やダム管理者によるダムの事前放流等の継続的な取組にお礼を申し上げるとともに、引き続き取り組みをお願いしたい。
- 防災マップの更新が完了し、6 月に各世帯への配布を予定している。今回の更新では土砂災害警戒区域や高梁川の浸水想定区域図の見直しを反映し、より見やすい形式へと改良した。防災マップの更新等を通じ、住民への的確な防災情報の提供に努めていく。
- 中小河川における洪水浸水想定区域の指定・公表を順次進めるということだが、想定最大規模:L2 のみ公表されると、住民の恐怖心を助長してしまうことを危惧しているため、従来の計画規模:L1 も合わせて実施することについて検討頂きたい。
- ダムの的確な事前放流、貯水位の低下による空き容量の確保等を引き続き実施して頂くとともに、放流設備の増設等の改修も引き続き検討して頂きたい。
- 今後も高梁川沿川の防災が促進されるよう、情報共有、連携体制の強化を図っていく。
- 新成羽川ダムのカメラ情報の提供においては、中国電力に大変感謝している。川の防災情報で閲覧できるため、沿川各市の皆様には新たな情報として活用して頂きたい。
- 現在、高梁川の河川整備について、ご尽力頂いており、大変感謝している。
- 防災・減災、国土強靱化のための 5 か年加速化対策は非常に有効と考えている。5 か年で終わるのではなく、国全体の強靱化に向けて高梁川沿川の 4 市合わせて声を挙げていきたい。
- 高梁川と軽部川の合流点において、清音の排水ポンプの強化、県管理の軽部川の掘削をお願いしたい。
- 作原から美袋の入り口、種井地区では浸水が常習化しているため、国道 180 号の嵩上げをお願い申し上げる。
- 河道掘削は、酒津から種井地区の 6 箇所を取組を進めて頂いており感謝している。美袋地区も、住民が高梁川からの越水を心配しているため、河道掘削をお願いしたい。
- 6 月に平成 30 年 7 月豪雨の教訓を活かした実践的な水防訓練を実施するため、ぜひ出席をお願いしたい。
- 小田川の堤防強化が概成となり、取組に感謝申し上げます。住民の間でも安心感が高まり、安心して真備で自宅を再建している。
- 小田川合流点付替え事業の進捗率が 6 割を超え、令和 5 年度末の完成に向けて一日も早い完成に引き続き尽力いただきたい。

- 3月に見直しを行った高梁川水系河川整備計画(大臣管理区間)に基づき、より安心・安全に暮らせる地域づくりにご尽力賜りたい。
- ダム事前放流の仕組みが国・県ともに整っており、中国電力においては住民にもダムのカメラ情報を提供して頂いているところである。住民の安心感が高まっているところであるため、今後も適切な運用を進めて頂きたい。
- 出水期前であることや、愛知県の漏水事故等を踏まえ、水防災に関する関心が高まっていると認識している。市内の用水路の点検等、多様な面での備えが必要と考えている。
- 気象台により、6月から線状降水帯の発生予測が公表されると伺っている。広範囲での予測と伺っているが、ぜひ高精度の情報をより早期に提供して頂けるとありがたい。
- 中小河川を対象とした洪水浸水想定区域(想定最大規模:L2)の指定に関して、日常生活の中で理解して対応することが難しい面もあるため、計画規模:L1も合わせて示すための工夫をして頂きたい。
- 流域治水の取組として、用水路の事前水位低下や市街地再開発事業の際の地下貯留施設、透水性舗装等の設置等に取り組んでいる。
- 市内で2000㎡以上の開発行為を行う事業者に対して、1ha当たり250トンの貯留施設を設けることを条例として規定した。
- このようにあらゆる取組による洪水・浸水被害の軽減が必要であると考えているため、出水期後も引き続きお願い申し上げる。

#### 【河川管理者及びダム管理者からの主な発言】

- 洪水浸水想定区域図(想定最大規模:L2)に示される情報を住民の皆様には避難に役立てて頂きたく、ハザードマップを作成して頂くことが重要と考えている。想定最大規模:L2は確かにインパクトが大きい情報であるが、住民の皆様理解していただけるよう説明し情報を提供していくことが必要と考えている。
- ダムの事前放流は、引き続き利水ダムの関係機関と協働してより効果的・効率的なるよう一緒に検討しながら取り組んでいきたい。
- 防災情報の充実に向け、各機関が発信する情報を川の防災情報に集約する等、関係機関の協力を頂きながら引き続き進めていきたい。
- 5か年加速化対策は大方進捗してきているが、引き続き地先の安全度向上に向けて地域状況等の声を地域から挙げて頂きたい。
- 軽部川の清音の排水ポンプは、国と県との勉強会を引き続き開催し、方法を検討していく。
- 国道の嵩上げについては、国道管理者、河川管理者と合同で勉強会を設置し、対策を検討しているところである。
- 笠井堰改修は高梁川水系河川整備計画(大臣管理区間)に基づいて引き続き進めていくため、各市にはご協力をお願いしたい。

- ダムの洪水調節効果を定量的にお示しできたため、引き続き関係機関とも協力し、精度向上に取り組んでいく。
- 国交省管理施設の緊急点検を予定しており、関係機関の皆様にはご協力いただきたい。経済的・社会的被害が発生しないよう、しっかりと点検を進めていく。
- 気象庁による線状降水帯予測や河川管理者による水位予測の精度向上を図り、今年から発表する 3 時間先の予測に基づく洪水予報のような形で予報等に反映していく。
- 流域治水プロジェクトの取組に関して、開発規制の条例については、地域の安全度が高まると共に参入される開発事業者のメリットにも繋がるため、助成制度を活用しながら進めて頂きたい。
- 中小河川における洪水浸水想定区域図作成は、令和 7 年度までに県内全河川で指定公表することを目標としている。その中で、高梁川水系を優先して対応している。計画規模の:L1については、設定のやり方や進め方について、各市と協議を進めながら検討していきたい。
- 県管理ダムにおける事前放流の適切な実施や、治水効果を効果的に発揮するための対策について引き続き検討していく。
- 高梁川中上流域の改修は、昨年度 10 月に策定した高梁川水系河川整備計画(県管理区間)に基づき、各市と連携して具体的な検討を進めていく。
- 軽部川の内水対策について、国・市と連携して対策を検討していく。
- 国道180号の嵩上げによる浸水対策は、国道管理者と河川管理者の役割分担などを協議、調整しているところである。
- 高梁川の河道掘削は、浸水重点事業として堤防整備、築堤と合わせて進めているところである。現在は、作原地区を集中的に進めているが、下流から上流に向かって順次実施予定であり、今後各市よりご意見を頂きながら精査して進めていく。
- 沿川の市や国・関係機関と連携しながら高梁川水系の防災・減災対策にしっかりと取り組んでいく。
- 小阪部川ダムでは、これまで基準雨量に達する降雨が無かったため事前放流に至っていない。いざという時に的確に実施できるよう実績を重ねていく。
- 田んぼダムや用水路の事前水位低下による貯留対策が四国で先行的に実施されており、その中で河川側と農業側の役割分担が課題と伺った。そういった取組状況や助成金の活用等を含め、皆様と情報を共有していく。
- 出水期前に各市から頂いた要望を社内で共有し、新型コロナウイルス感染症の影響により出水対応要員の確保に支障が無いよう緊張感を持って対応していく。